



財政運営と課題の取組みは

大山 二郎 議員

交流センター終了後取り組む

町長

新年度予算

事業の優先順位は。

町長 事業の全てが町民生活に不可欠な物で優先順位は言えないが、交流センターの整備事業は優先して計上した。

交流センターは管理や運営、人事等何も決まっていない。建てることだけを優先したのでは。

町長 建てることによつて難しい面が出てきたので、今後見えるような方向で検討していく。

今後の財政や事業はどうなる。事業はすぐできるものではなく、現事

業と並行して先々の計画も進め、空白のない事業展開をしていくべき。

町長 3年間で一時的に借金は増加するが、返済はしつかりやってくる。

また、今後予定、想定される消防分署改築整備事業や小学校の統合ほか大規模事業は交流センターが終了してから実施する。

流雪溝整備や間口除雪は。町長 流雪溝については、地域の方々から話を聞き対応していく。間口除雪は、地域のコミュニティやボランティア活動、



優先課題がめじろ押し

創生総合戦略

有償除雪隊の創生など、対策を講じていく。

昨年の法改正により、要支援1・2、要介護1・2の方は各自自治体で手当をするが、その取り組みは。

町長 多様化に対応するため、地域包括ケアシステムの構築と低所得者の保険料軽減の充実、所得や資産のある人の資産割合を見直すなど費用負担の公平化を図る。

町長 責任を持って策定した創生総合戦略の中の大石田版CCRC(※)について、理解しているのか。行政全般についてもっと勉強すべきではないが、これから良い町にするために何をしていく。

町長 最上川舟運文化・雪・もてなしの文化を訴えていきたい。



※CCRCとは
高齢者が健康なうちに同居し、終身で過ごすことが可能な生活共同体をCCRC (Continuing Care Retirement Community) と言います。



親の収入に左右されない 保育・教育環境を

遠藤 宏司 議員

多額の財政負担で難しい

町長

生活実態の把握は

非正規雇用者が4割を占める時代、保護者と子どもの生活実態を正確に把握しているか。

町長 保育園に入園など町機関との接点があるとか、民生委員・児童委員や社会福祉協議会などを通じて情報のあった子どもとその家庭については就労や収入状況、家庭環境などある程度把握しているが、接点がない子ども



スクールバスの利活用で保護者負担の削減！

もや家庭については把握していないというのが正直なところだ。

無料化を図れ

こどもが激減する中、他市町村に先がけて保育料や学校給食費、高校卒業までの医療費を無料化し、収入格差に左右されない保育・教育環境を整えるべきではないか。

化、減額措置も行っている。医療費は収入に関係なく中学生まで無料化している。これ以上の無料化の拡大は、多額の財政負担を伴うことから難しい。

利用への補助を来年度は増額する。小学校5年生の宿泊体験学習はスクールバスを利用し、経費は全額町負担にする。保護者から集金している就学費は、全児童・生徒で、年額8200万円になる。すべてを無料化することは困難だが、スクールバスの利活用のように保護者の経済的負担の軽減を検討していきたい。



楽しい宿泊体験学習(金峰少年自然の家)